

2026年3月11日

各 位

会社名 株式会社サイフューズ  
代表者名 代表取締役 秋枝 静香  
(コード番号：4892 東証グロース・福証 Q-Board)  
問合せ先 取締役 CFO 経営管理部長 三條 真弘  
<https://www.cyfusebio.com/contact>

## 2025年12月期 通期決算に関する質疑応答集

当社の2025年12月期 通期決算に関しまして、株主、投資家等の皆さまからいただいたご質問及び当社からの回答につきまして、主なものを以下のとおりお知らせいたします。

本開示は市場参加者の当社に対するご理解を一層深めることを目的として情報提供を行うものであり、当社の判断において一部内容・表現の加筆・修正を行っております。

なお、本開示は、現時点での情報に基づいて当社回答を取りまとめたものであり、当社の現在の見通し、予想・計画等を含む将来に関する記述が含まれておりますが、実際の進捗、将来の出来事等に照らして、様々な要素によって変動する可能性があることにつきご了承ください。

### 1. 2025年12月期の実績の内容と今後の見通しについて教えてください。

- 2025年12月期は、①再生医療領域では、末梢神経再生及び骨軟骨再生の3つのパイプライン開発について、2026年の治験開始に向けた製造及び臨床体制を整備する等、臨床開発が着実に進展、②創薬支援領域では、3D細胞製品「ヒト3Dミニ肝臓®」のラインナップ拡充及び販売体制強化により市場浸透が加速、③デバイス領域では、再生医療等製品の生産技術開発及び製品製造環境の整備が加速しました。
- 売上面においては、再生医療・創薬支援・デバイスの複数領域において、開発成果や技術普及、実需に基づく収益拡大の好循環傾向により、バイオ3Dプリンタ等のデバイス製品に加え、「ヒト3Dミニ肝臓®」等の3D細胞製品の販売や各種受託等が着実に進展した結果、前年同期比で約4.2倍の大幅な増収となりました。
- 利益面においては、当社独自のプラットフォーム技術を共通基盤として複数のパイプライン開発へ活用することで、製造プロセスの開発効率向上とコスト効率化が進み、前年同期比で損失幅が縮小いたしました。
- 今後も、デバイス販売や消耗品、3D細胞製品等による『ベース収益』を着実に積み上げつつ、提携一時金などの『権利収益』、そして将来の収益の柱となる再生医療等製品の上市による『成長収益』を組み合わせた強固な収益基盤を構築します。これにより、外部環境や変動要素に左右されることのない、当社独自の自律的かつ安定的な成長モデルの確立を目指してまいります（2025年12月期決算説明会資料 P.52 参照）。

2. 「ヒト 3D ミニ肝臓®」などの機能性細胞デバイス（FCD 製品）の今後の展開方針について教えてください。

- ・ 機能性細胞デバイス（FCD®）とは、当社独自の基盤技術である「バイオ 3D プリンティング」を用いて作製される三次元の細胞構造体であり、ヒト臓器の機能の一部を体外で再現する特性を有しています。従来の二次元細胞培養では再現が難しかった生体内の複雑な環境や機能を三次元において再現することで、新薬開発における薬物応答性の評価や疾患メカニズムの解明等に貢献することが期待される新たな 3D 細胞製品です。
- ・ FCD 製品は、製薬企業や研究機関に対し、創薬プロセスの効率化と開発成功率の向上に寄与する高精度な評価モデルとして、安定した品質と高いユーザビリティを特徴としており、医薬品開発の時間・コスト削減、将来的には、現代の社会的課題である動物実験に対する代替法としての可能性を有する次世代の評価ツールとして期待されています。
- ・ 今後も、「ヒト 3D ミニ肝臓®」の販売強化を図るとともに、FCD®の製品ラインナップを拡充し、グローバル展開及び他領域への参入等の拡大展開も積極的に推進してまいります（2025 年 12 月期決算説明会資料 P.9 参照）。

3. 2025 年 12 月に福岡証券取引所（Q-Board 市場）へ重複上場した主な目的・理由等について教えてください。

- ・ 昨今、「福岡バイオコミュニティ」の活動等、福岡ではバイオテクノロジーや先端医療分野等の研究開発及びスタートアップ支援が活況な環境下にあります。そのような環境のもと、これまでの九州・福岡地域での活動成果も踏まえ、創業の地である福岡発のスタートアップとして、福証への上場を通じて、地域経済への貢献及び地域投資家層に対する当社のプレゼンスを高めること等を目的に重複上場をいたしました。これにより、九州・福岡地域でのさらなる産学官連携の深化や地元企業との新たな事業シナジーの創出を加速させ、「福岡バイオコミュニティ」との連携を通じて、新たな医療・産業の創出及び地域創生に貢献してまいります。
- ・ 東証に加え、地域に密着した福証に重複上場することで、個人投資家を含む幅広い投資家層に当社を知っていただく機会を創出します。これにより、株主構成の多様化を図るとともに、中長期的な株式の流動性向上と適正な時価総額の形成に寄与するものと考えております（2025 年 12 月期決算説明会資料 P.7 参照）。

以上